

胎児エコーを通じて伝える 産婦人科の“魅力”

— POP-K から発信 —



REPORT

■ 概要 — 近畿産婦人科実習セミナー（POP-K：Plus One Project in Kinki） —

POP-K は近畿産科婦人科学会後援のもと、初期臨床研修医に実習を通じて産科婦人科の魅力を伝えることを目的としています。本セミナーは、分娩 / 会陰縫合、超音波、腹腔鏡、産科救急のプログラムで構成され、参加者は10名程度のグループに分かれて手技を学びます。

今回の超音波ブースでは、日本産科婦人科学会のガイドラインに沿って制作した“胎児エコー指導動画（映像教材）”を活用した実習を行いました。

この映像教材は、初学者でも胎児エコーを理解しやすい内容となっており、近畿産科婦人科学会 実習セミナー YouTube より視聴可能です。



中川 慧

大阪大学大学院医学系研究科
産科学婦人科学教室

■ 指導者の想い



伊東 優

市立豊中病院
産婦人科

胎児エコー手技を習得するうえで、研修医と指導医の双方にとって有用な手段を模索していました。

今回使用した映像教材は、計測とスクリーニングの2種類で構成されており、手元のプローブ走査（位置／角度）と描出画像を同時に確認できることが特徴です。医師だけでなく、助産師の手技習得にも役立つと考えています。



小林 まりや

大阪大学大学院
医学系研究科
産科学婦人科学教室

今回のように複数人を同時に指導するセミナーの場合、映像教材を大画面に投影し、参加者の進捗を統一させることができます。また、参加者が事前に映像教材を視聴し走査手順をあらかじめ把握することによって、スムーズな実習の進行も可能です。指導にあたるメンバーは限られた時間の中で余裕を持ってエコーの“コツ”を伝えることができます。

POINT

映像教材を活用した エコー教育のかたち



使用製品：胎児超音波診断ファントム SPACE FAN-ST

実習内容



講義

プローブ走査のコツを学ぶ。
(計測／スクリーニング)



映像視聴

3画面(上方・側面・描出画像)で構成された映像を視聴し、プローブ走査や描出画像のイメージをもつ。



ハンズオン

大画面に投影された映像教材を視聴しながら、胎児の描出を試みる。必要に応じて指導者より補助を受ける。



- ☞ 探触子 (位置・角度) 走査の把握
- ☞ いつでもどこでも学習 (予習 ▶ 復習)



映像教材

計測編 / スクリーニング編

監修：近畿産科婦人科学会 / 近畿産婦人科実習セミナー (POP-K) 実行委員会
制作：大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学教室